

中学生用金融教育教材
技術・家庭科(家庭分野)

生活に必要な
金銭の流れを理解し、
消費行動を見直そう

—「見えないお金」が
見えてくる!—

指導書

金融広報中央委員会とは？

金融広報中央委員会(事務局:日本銀行情報サービス局内)は、都道府県金融広報委員会、政府、日本銀行、地方公共団体、民間団体等と協力して、国民に対し、中立・公正な立場から「金融経済情報の提供」と「金融経済学習の支援」を行っている団体です。

■執筆 <敬称略>

横浜国立大学教育学部教授 堀内かおる
横浜国立大学教育学部附属横浜中学校教諭 池岡 有紀

■執筆協力 <敬称略>

「学校における金融教育推進のための教材研究会」委員

独立行政法人教職員支援機構
次世代型教育推進センター上席フェロー 大杉 昭英
文部科学省初等中等教育局教科調査官・
国立教育政策研究所教育課程研究センター
研究開発部 教育課程調査官 樋口 雅夫
群馬県教育委員会事務局 義務教育課長 鈴木 佳子

平成30年3月発行

技術・家庭科(家庭分野)

**生活に必要な金銭の流れを理解し、
消費行動を見直そう**

—「見えないお金」が見えてくる!—

指導書

■編集・発行 金融広報中央委員会
(事務局 日本銀行情報サービス局内)
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町2-1-1
03-3279-1111(代表)
<https://www.shiruporuto.jp/>

■印刷 若越印刷株式会社

©金融広報中央委員会 2018

無断転載を禁じます。

金融広報中央委員会

生活に必要な金銭の流れを理解し、消費行動を見直そう －「見えないお金」が見えてくる！－

(総授業時間：8時間)

○ 実施学年、教科等

第2学年 技術・家庭科（家庭分野）

○ 題材の目標

- (1) 生活の中でどのように金銭が扱われているのかが分かり、物資・サービスを消費している自覚を持つとともに、環境に配慮して行動できるようにする。
- (2) キャッシュレス化の進行する下での多様な購入・支払方法の仕組みや金銭管理上の留意点、消費者支援の仕組みを理解し、消費者被害にあわないよう行動できるようになる。

○ 学習の評価

- (1) 生活の中でどのように金銭が使われているのかが分かり、物資・サービスを消費している自覚を持ち、環境に配慮した消費行動の必要性を理解し、行動しようとする意欲を持っている。(ワークシート)
- (2) 売買契約に基づく「見えないお金」の流れを理解し、消費者被害にあわない行動をとることができ、商品を比較検討して購入計画を立てることができる。(ワークシート)

○ 展開の特色

- (1) 将来の生活を考えさせることで、現実社会の消費生活に関する課題を考えることができるようにしている。具体的には、成人した時に持っていたいものを想像し、金銭管理、契約、消費者被害のほか、実現可能性(成人した時にこれらを持てるか)について学ばせ、これらの観点から再度、総合的に商品購入について考えさせるようにしている。
- (2) 生活に必要な物資・サービスを購入するために、クレジットカードや電子マネーなどの「見えないお金」が使用されている現状を踏まえ、インターネットを介した通信販売や三者間契約の仕組みを理解させ、適切な消費行動を考えられるようにしている。
- (3) 自分の消費行動が社会に一票を投じることにつながるという理解を促し、持続可能な社会を目指す消費者としての自覚を持たせている。
- (4) 学習を踏まえ、責任ある金銭管理の重要性について考えを深めて表現する手立てとして、川柳の形で表現し、発表させている。

○ 「学校における金融教育の年齢層別目標」の該当項目[※] ※記号については「金融教育プログラム【全面改訂版】」P.32～45参照。

Aーア・ウ、Bーア・エ、Cーア・イ、Dーイ・ウ

○ 学習内容のキーワード

物資・サービス、売買契約、金銭管理、消費者の権利と責任、持続可能な社会

○ その他

第4時において、モバイル端末を使用する場合は、(一社)日本クレジット協会クレジット教育センター宛に貸出申込みの手続きを行う(借用できない場合は、この学習活動は教師による説明で代替することができる)。

○ 指導計画

学習過程	時数	・ 目標	● 学習内容・学習活動		◆ 金融教育の視点	★ 指導上の留意点	・ その他（資料等）
生活の課題発見	1	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活を振り返り、どのようなことにお金が使われているのか気付かせる。 消費生活で起こりうるトラブルについて知り、これからの本題材の学習のめあてを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で購入・利用されている物資・サービスを考え、現金のみではなく、電子マネーや金融機関による引き落としなどの支出があることに気付く。 消費行動に伴って起こり得るトラブルや成人した時にどのような消費者になっていたのかを考え、ワークシートに記入する。 		<ul style="list-style-type: none"> 生活にかかる経費に着目させる。支払方法の多様性を踏まえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 一日の生活の中で、様々な形で金銭が使用されていることに気付かせる。 ★ 消費生活の中で起こりうるトラブルについて考えさせ、今後の生活に向けた課題を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート1 本題材全体に対する問題意識を喚起するため、主要な関連データを提示することが望ましい（キャッシュレス化の進行する下での消費者トラブルに関するデータ、生涯収入・支出額に関連するデータなど）。
	2	<ul style="list-style-type: none"> 自分の欲しいものを購入するために、計画的な金銭管理が必要であることを理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 成人するまでにどのようなことにどのくらい費用が掛かるのか計算し、生活を営むためにおよそどのくらいの金銭が必要なのか理解する。 ● 成人した自分を想像し、そのときに持っていたいものを考える。 ● 成人した自分が理想とする生活を実現するために、多くの費用がかかることが分かる。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 生活設計の視点を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ これまでの生活および将来の生活を展望することを通して、生活するうえでどのようなことに費用がかかるのか気付かせる。 ★ 毎日の生活を営む上で、計画的な金銭管理が必要であることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート2
解決方法の検討と計画	3	<ul style="list-style-type: none"> 1カ月の生活費を踏まえ、欲しいものを購入するための工夫を考えることができるようにする。 商品やサービスを購入する際に、有用な情報を収集して検討することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 前時に想定した「成人した時持っていたいもの」について、商品を購入するための情報を収集・活用し、多様な種類があり価格も異なっていることが分かる。 ● 購入したい商品について、具体的なイメージをワークシートにまとめて表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 情報を収集・分析し、商品の特徴を捉えさせる。 ◆ 商品の特徴を踏まえ、付いている価格の根拠を考慮することができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 多様な情報を踏まえ、比較検討して最も適切な商品はどれか考えさせ、選択できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に収集し持参した商品のカタログ・チラシなど。 ワークシート3
	4	<ul style="list-style-type: none"> 商品の販売方法や支払い方法の特徴と、売買契約の意味やクレジットカードの仕組みについて理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 商品の販売方法や支払い方法の特徴を理解する。 ● クレジットカードを使用して商品を購入するシミュレーションを通して、クレジットカードを使用する際の売買契約がどのような仕組みになっているのか理解する。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ シミュレーションを通して、三者間契約の仕組みを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 18歳未満の人はクレジットカードを作ることができないのはなぜなのか、「クレジット」の意味を考慮することを通して、契約について学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート4 クレジットカード モバイル端末は、(一社)日本クレジット協会に申込書をFAXまたは郵送して借用する（詳細は同協会ホームページ参照）。

学習過程	時数	・ 目標	● 学習内容・ 学習活動		◆ 金融教育の視点	★ 指導上の留意点	・ その他（資料等）
課題解決に向けた実践活動	5	<ul style="list-style-type: none"> 消費者被害の実態を知り、被害にあわないようにするにはどうしたらよいか思考を促し判断できるようにする。 消費者の権利と責任について理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> クレジットカードによる購入や、インターネットを用いた通信販売において、消費者被害に遭遇しかねない場面を取り上げ、どのように対応したらよいかを考え、留意点をまとめる。 消費者の権利と責任について、ワークシートに記載された基本項目（国際消費者機構〈CI〉の提唱した8つの権利と5つの責任）に即して、具体的な内容を考え、ワークシートに記入する。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 消費者に関わる法律を理解させる。消費者保護政策について知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ インターネットオークションについても取り上げる。 ★ クーリングオフ制度など、消費者保護政策について扱い、生徒自身が今後、どのような行動を取ったらよいかについての理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート5
	6	<ul style="list-style-type: none"> 環境に配慮した商品を選択する必要性について理解できるようにする。 持続可能な社会のために、自分にできることを考え、消費者としての自覚を持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● エシカル消費について知ることを通して、環境に配慮した消費行動とはどういうことか、なぜ必要なか資料をもとに考える。 ● グループで意見交流をし、自分にできることを具体的に考える。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 消費行動が社会に1票を投じるという意味を持つことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 環境に配慮した商品やグリーンコンシューマー、フェアトレードなどについて取り上げ、倫理的な消費者（エシカル・コンシューマー）が求められる理由について理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート6
	7	<ul style="list-style-type: none"> 学習した多様な商品の種類や購入方法・支払方法を踏まえ、商品やサービスの購入にあたり、留意する必要があることを理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 成人した時、こうありたいと思う自分の生活を実現するために必要なものについて、適切な購入方法・支払方法を考え、購入計画書を作成する。 ● 計画書をグループで発表し合い、計画の具体性や実現可能性について相互評価を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 商品やサービスを選択する視点を持ち、具体的な生活場面に応用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ 相互評価を通して、他の生徒の意見に触れることにより、自らの視野を広げ、気づきが得られるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート7
実践活動の評価・改善	8	<ul style="list-style-type: none"> 学習のまとめを通して、責任ある消費行動と金銭管理の重要性を確認し、今後の課題をつかむことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習したことを踏まえ、金銭管理に関わるアンケートに回答し、自分自身を振り返る。今後の生活に生かすための自分のめあてを考え、川柳として五七五で表現する。 		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 金銭管理と消費行動について自らの生活を振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ★ アンケート項目に環境への配慮なども含め、生活全体を見直すよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート8





○ 本時の展開 (第1時)

- 本時 (第1時) の目標**
- ア 消費行動を振り返り、自分の消費生活に対する関心を持つ。
 - イ 消費生活で起こりうるトラブルについて知り、消費者トラブルにあわないようになろうというめあてを持つ。

	・ 学習内容	● 学習活動		◆ 金融教育の視点	★ 指導上の留意点	・ その他
導 入	・ 「よりよい生活」を営むために、消費者としての自分に必要なこととは何か	<ul style="list-style-type: none"> ● 「消費者としての自分」をイメージし、「よりよい生活」とはどのような生活なのか考え、そのために必要なこととは何か、話し合う。 ● これから消費生活について学習することを覚える。 		◆ 「消費者としての自分」とはどのような自分なのか、具体的な言葉で言えるように促す。	<ul style="list-style-type: none"> ★ 金銭を使って商品やサービスを購入し生活をしているということに着目させる。 ★ 最近買ったものはないか問いかけ、具体的に自分の消費生活を振り返ることができるようにする。 	
展開 ①	・ 生活の中で購入・利用されている物資・サービスとは	<ul style="list-style-type: none"> ● 一日の中で、どのようなことに金銭が使用されているのかを考える。 ・ Aさんの行動をもとに考える。 ・ Aさんの休日で利用されていた、物資とサービスを分類する。 ● 現金のみではなく、電子マネーや金融機関による引き落としなどの支出があることに気付く。 ● Aさんの休日と自分の休日を比較し、共通しているところ、異なっているところを考える。異なっているところについて、どのような物資・サービスなのか、考えて分類する。 		◆ 生活を成り立たせている物資とサービスについて理解させる。	<ul style="list-style-type: none"> ★ 一日の生活の例としてワークシートのAさんを取り上げる。 ★ Aさんの例と比較しながら、自分自身の生活に引き付けて考えることができるようにする。 ★ 生活の中の「見えないお金」の動きについて着目し、消費行動の概念が広がるようにする。 	
展開 ②	・ 消費行動がもたらすトラブルの可能性とは	<ul style="list-style-type: none"> ● 消費行動に伴って起こりうるトラブルについて考え、ワークシートにまとめる。 		◆ 消費者トラブルにはどのようなものがあるのか考えられるようにする。		・ ワークシート1の〈2〉に記入することによって、自分の生活を思い浮かべながら考えられるようにする。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の授業の振り返り ・ 次時の授業の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の授業を振り返り、成人した時どのような消費者になりたいか考える。 		◆ 金銭を媒介として生活が成り立っていることを実感させる。	<ul style="list-style-type: none"> ★ 一連の題材の第1時として、今後の学習への意欲を喚起する。 ★ 次時は成人した自分を想定して考えることを伝え、成人した時にどんな生活をしているか、考えておくように伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一連の題材に関連する主要データを提示する（キャッシュレス化の進行する下での消費者トラブルの事例、生涯収入・支出に関するデータなど）。

○ 本時の展開 (第2時)

本時 (第2時) の目標

- ア 生活するためには、様々な用途で金銭が必要であることを理解する。
- イ 自分の欲しいものを購入するためには、計画的な金銭管理が必要であることを理解する。

	・ 学習内容	● 学習活動	◆ 金融教育の視点	★ 指導上の留意点	・ その他
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の振り返りと本時の目標の確認 ・ 成人した自分のイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> ● 成人した時にどのような消費者になりたいかについて前時に考えたことを思い出す。 ● ワークシートの「成人した私のプロフィール」を記入し、イメージを膨らませる。 ● ワークシートに記入したら、グループで意見交換し、成人した自分の将来像について紹介し合う。 	◆ 生活設計の視点を持ち、将来なっていたい自分の姿を思い描くよう促す。	<ul style="list-style-type: none"> ★ 法的な成人年齢を踏まえ、中学生の現在と何が異なるのかを考えさせる。 ★ 意見交換を通して、成人した自分の将来像について、共通する考え・異なる考えがあることに気付かせる。 	・ できるだけ具体的に考えさせる。
展開①	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成人するまでに、どのくらいの費用が掛かるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 成人するまでにどのようなことにどのくらい費用が掛かるのか計算する。 ● 中学2年生の現在から、この先成人するまでの間に起こるであろう、様々なライフイベントを想像し、自分の将来を展望する。 ● 進路によって、必要となる費用にも差が生じることに気付く。 	◆ 成長し自分の目指す進路に進むということは、金銭的な支えがあって初めて実現することによって気付かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ★ 多様な家庭的背景を持つ生徒がいることを想定し、プライバシーには十分配慮する。 ★ 生徒の「こうありたい」と願う姿を考えさせるようにする。 	・ 奨学金の支給などについても、資料を用意して情報として伝えるようにする。
展開②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成人した時に持っていたいものは何か 	<ul style="list-style-type: none"> ● 成人した時の自己イメージを膨らませ、欲しいと思っているものを想像する。大人の仲間入りをした年齢だからこそ、手に入れたいものという観点から、考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに自由に書き加える。 ・ 成人した時に持っていたいものについて、グループで意見交換し、なぜ欲しいと思っているのか、どのように使いたいのか、紹介し合う。 ・ 発表を聞き、自分とは異なる考え方があることに気づき、自分の欲しいものとそれに対する考えを振り返る。 	◆ 成人した時に持っていたいもの考えることを通して、欲しいものを購入するためには計画的な金銭管理が必要であることに気付かせる。	<ul style="list-style-type: none"> ★ 「欲しいもの」は毎月のお小遣いでは買えない、ある程度高額な商品という条件を付けて、具体的にイメージさせる。 ★ 「なぜその商品が欲しいのか」という理由に着目させ、消費の目的は様々であることを理解させる。 	・ 初めから限定的な制約をかけることなく、自由に考えるように促す。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の授業の振り返り ・ 次時の学習課題について 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の授業を通して、感じたことや考えたことを、ワークシートに記入する。 ● 次時の学習内容を知り、本日想定した「欲しいもの」について調べるといった課題を知る。 		<ul style="list-style-type: none"> ★ 適切な金銭管理の必要性に気付かせるとともに、娯楽的な支出より生活に必要な支出を優先する考え方を促す。 ★ 同一の商品に関して、できるだけ多様な種類のカatalogやチラシを集めてくることを伝える。 	・ 具体的な商品について、関心を持って資料を収集できるように、動機付けをする。

○ 本時の展開 (第3時)

- 本時 (第3時) の目標**
- ア 情報を読み取り、複数の商品を比較検討し、根拠をもって最も望ましい商品を選択することができる。
 - イ 欲しいものを購入するための工夫を考えることができる。

	・ 学習内容	● 学習活動	◆ 金融教育の視点	★ 指導上の留意点	・ その他 (資料等)
導入	・ 前時の振り返りと本時の目標の確認	● 成人した時に自分が持っていたいものについて、調べてきたことをもとに検討することを知る。		★ 生徒が自分の将来を想定してシミュレーションを行うことを強調し、本時の学習に対する関心を高める。	
展開①	・ 有用な情報の収集と検討 ①違いは何か ②自分のニーズと合わせて、どの商品が適当か ③品質はどうか ④機能はどうか ⑤保障についてはどうなっているか ・ 様々な購入方法や支払い方法	● 前時に想定した成人した時に持っていたいものについて、収集してきたカタログやチラシをもとに比較検討する。自分にとって、最も欲しいと思われる商品を選び、なぜその商品がよいのか、グループの中で交流し、説明し合う。 ・ 持参したカタログやチラシ、パンフレットから3種類の商品を取り上げ、相互に比較し、分かったことをワークシートに記入する。 ● 多様な種類があり、価格や購入方法、支払い方法も異なっていることを知る。	◆ 自分にとって本当に必要なものを選択するという視点を持たせる。 ◆ 商品の種類によって価格が異なることに気付かせる。同一の種類の中でも様々な価格の商品があることに気付かせ、それぞれの価格が付いている理由を考えさせる。	★ 生徒が主体的に比較検討の作業に取り組めるよう、机間指導を行う。	・ カタログやチラシを有効に活用し、情報を読み取らせる。 ・ ICTの環境が整っていれば、本時内でのインターネットによる検索も認める。
展開②	・ 自分が購入したい商品の決定	● どの商品を購入するか決定し、なぜその商品に決めたのか、根拠を説明する。 ● 成人した時にかかる生活費を踏まえ、欲しいものを購入するために、どのような方法があるのかを考える。	◆ 計画的な金銭管理の必要性を理解させる。 ◆ 欲しい商品を購入するためには、どのくらいの見通しを持って、金銭計画を立てたらよいか、考えることができるようにする。	★ 根拠を持って、欲しい商品を決定できるようにする。その際、多面的に比較した結果の判断できるように、助言する。	・ ワークシート3にある「大学生の生活費(1カ月)」のデータに加え、20歳前後の会社員の月収、学生アルバイト収入についての資料を参照し、限りのある予算から購入する必要性を理解させる。 ・ ワークシート3の〈3〉の結果を踏まえ、購入するためには働いて収入を得る必要があることを理解させる。
まとめ	・ 本時の授業の振り返り ・ 次時の授業の確認	● 本時の授業を通して、感じたことや考えたことを、ワークシートに記入する。 ● 次時は、比較的高額な欲しいものを購入するための方法について考えることを知る。	◆ 商品の表示やマークについてのメディア・リテラシーを身に付けさせる。	★ 購入方法に対する関心を喚起する。	

○ 本時の展開 (第4時)

- 本時 (第4時) の目標
- ア 販売方法および支払方法の種類とそれぞれの特徴について理解する。
 - イ 契約の意味を理解し、クレジットカードの仕組みが分かる。

	・学習内容	●学習活動	◆金融教育の視点	★指導上の留意点	・その他
導入	・前時の振り返りと本時の目標の確認	●前時で購入したいと考えた商品を購入する際、どのように支払うか、学級で意見交流を行う。その行為が契約であること、支払い方法について学習することを知る。	◆多様な購入方法に着目させる。		
展開①	・契約とは ・販売方法・支払い方法の種類と特徴	●普段行っている買物も、法的な約束ごとの「契約」であることを知る。 ●販売方法には、店舗販売と無店舗販売があることや、その具体例を知る。また、それぞれの長所と短所を知る。 ●支払い方法には、前払い・即時払い・後払いがあり、具体的にはどのようなものがあるのかを知る。また、それぞれの長所と短所を知る。	◆契約の意味を理解し、身近な生活の中で自分も契約をしていることに気付かせる。 ◆販売方法の種類と特徴を知らせる。 ◆支払方法の種類と特徴を知らせる。	★販売方法の長所と短所を理解し、状況に応じて適切な方法を選択する必要性を理解させる。 ★支払方法の長所と短所を理解し、状況に応じて適切な方法を選択する必要性を理解させる。 ★社会科公民的分野における契約の学習につながるようにする。	
展開②	・クレジットカードと三者間契約の仕組みについて	●中学生は、クレジットカードは作れないことを知る。また、「クレジット」の意味について考える。 ●クレジットカードのWEB申込みサイトの内容を読み、申請フォームの出力に記入してみる。 ●モバイル端末を用いて、クレジットカード使用を模擬体験する（モバイル端末を借用できない場合は、教師による説明で代替する）。 ・三者間契約の仕組みについて理解する。	◆クレジットカードに関して、三者間契約の仕組みを理解させる。 ◆クレジットカードを使用して購入する際に気を付けるべきポイントを理解させる。	★クレジットカードを使用するということは、「信用」に基づく借金をしているという実態に気付かせる。 ★モバイル端末を使用することで、具体的な購入場面を体験的に理解させる。	・『これであなたもひとり立ち』ワーク8-3を使用してクレジットカード利用時の注意点を理解させる。 ・クレジットカードWEB申込みサイトの内容と申込みフォームを予め出力し、コピーしておく。 ・モバイル端末は、(一社)日本クレジット協会クレジット教育センターからレンタルする(借用方法については同協会ホームページ参照)。
まとめ	・本時の授業の振り返り ・次時の授業の確認	●本時の授業を通して、感じたことや考えたことを、ワークシートに記入する。 ●次時は、クレジットカードをはじめとする、便利な購入方法を利用する際に起こりうる問題について学習することを知る。			

○ 本時の展開 (第6時)

本時 (第6時) の目標

- ア 環境に配慮した消費行動の必要性を理解する。
- イ 中学生の自分にとって、環境に配慮した消費行動を実践するための課題を設定できる。

	・ 学習内容	● 学習活動		◆ 金融教育の視点	★ 指導上の留意点	・ その他
導入	・ 環境に配慮した消費行動とは	● 自分や家族の消費行動を振り返り、環境に配慮して行っていることがあるかどうか考え、学級全体で発表し、意見を共有する。		◆ 環境に配慮した消費行動についての視点を持つ。	★ 小学校家庭科における消費生活と環境の学習を思い出させる。 ★ 自分の家庭生活における取り組みを振り返らせる。	・ 小学校での家庭科学習から現在に至るまでの学習と家庭生活を振り返り、自分が環境のことをどう考えて行動してきたか注意を喚起する。
展開①	・ 「エシカル消費」という概念	● 自分の購入した商品についての情報を収集し、更に学級全体でそれぞれの商品について発表し合う。 ● 「エシカル消費」とはどのような消費のことを言うのか予想し、ワークシートに記入する。 ● エシカル消費の取り組みについて、なぜそのような取り組みがなされるようになったのか考え、ワークシートに記入する。記入後に、グループで意見交換し、理由について考えを深める。 ● エシカル消費の具体例について知る。 ・ フェアトレード／地産地消／エシカルファッション／被災地の特産品や地域の伝統工芸／障害者支援につながる商品／寄付付き製品／エコ商品／リサイクル商品／自然保護等認証商品／グリーン購入		◆ エシカル消費の概念を知る。 ◆ エシカル消費のための多様な試みがあることを知る。	★ エシカル（倫理的）という言葉が含んでいる意味について、考えさせる。 ★ 一人ひとりの生活が社会とつながっているということに気付かせる。 ★ 自分の身近にも環境に配慮した商品や試みが存在していることに気付かせ、生活の中に取り入れようという意識を喚起する。	・ 個人の生活は社会の在り方と結びついており、中学生も消費者として、よりよい社会を形成する責任の一端を担っているということに気付かせ、自覚を促す。
展開②	・ 持続可能な開発目標（SDGs）とこれからの消費生活で必要なこと	● 環境に配慮した消費行動が必要とされている社会的な背景について理解する。 ● エシカル消費のために、中学生の自分のできることを考え、グループで発表し合う。		◆ グローバルな視野で環境と生活とのつながりについて考えられるようにする。	★ 持続可能な開発目標の背景を知らせ、注意を喚起する。	
まとめ	・ 本時の授業の振り返り ・ 次時の授業の確認	● 持続可能な社会に向けて、自分のできることを知り、実践するための課題を持つ。 ● 次時には、これまでの学習を踏まえ、成人した時に持っていたいものの具体的な購入方法について考えることを知る。				

○ 本時の展開 (第7時)

- 本時 (第7時) の目標**
- ア これまでの学習を踏まえ、ものを適切に選択・購入する計画を立てることができる。
 - イ 批判的に思考し、ものを適切に選択・購入するための留意点に分かる。

	・ 学習内容	● 学習活動	◆ 金融教育の視点	★ 指導上の留意点	・ その他 (資料等)
導 入	・ 前時の振り返りと本時の目標の確認	● 今まで学習してきた、契約や購入方法、支払い方法、トラブルの対処方法など、学んだことを思い出す。それらを踏まえて、もう一度成人した時に購入したい商品について考えることを知る。			
展 開 ①	・ 商品の購入上の留意点	● 成人した時にこうありたいと思う自分の生活を実現するために必要なものについて、購入計画書を作成する。その際、これまでの学習で学んだ消費者としての権利と責任を踏まえ、適切なものを選択し購入できるように確認する。 ・ 購入目的は何か、どのように使用するか。 ・ 妥当な価格設定か。 ・ 購入方法、支払い方法はどのようなのか。 ・ エシカル消費の観点から見て適切か。	◆ 総合的な見地から、購入計画書を作成することができるようにする。	★ これまでの本題材の学習を振り返り、学んだ知識を活用できるようにする。	・ 商品に対する具体的なイメージを持たせる。学習を重ねたことにより、第3時に想定したものとは異なる視点で、商品を選択しなくなった場合には、新たな商品を選んでもよいことにし、その理由についても考えさせる。
展 開 ②	・ 計画書の見直しと修正	● 完成した計画書についてグループで発表し合い、計画の具体性や実現可能性について相互評価を行う。一人ひとりの計画に対し、ワークシートのチェック項目に記載するとともにコメントを書く。 ● グループのメンバーからの指摘を受けて、自分の計画書の改善点について、ペンの色を変えてさらに計画書に加筆する。	◆ 批判的に思考し、相互評価をすることができるようにする。	★ よりよい購入計画になるよう、具体的な助言をし合うように促す。	・ ワークシートへの自己評価の記入を通して、活動を振り返らせる。
ま と め	・ 本時の授業の振り返り ・ 次時の授業の確認	● 本時の授業を通して、感じたことや考えたことを、ワークシートに記入する。 ● 次時が本題材の最終回であることを知り、まとめの時間となることに期待を寄せる。			

○ 本時の展開 (第8時)

- 本時 (第8時) の目標**
- ア 消費者としての自分の実態を振り返り、自分の学習到達状況と課題を理解する。
 - イ 責任ある消費行動と金銭管理の重要性を確認し、今後の課題をつかむ。

	・ 学習内容	● 学習活動	◆ 金融教育の視点	★ 指導上の留意点	・ その他
導入	・ 前時の振り返りと本時の目標の確認	● 学習したことを踏まえ、金銭管理に関わるアンケートに回答し、自分自身を振り返る。	◆ 消費行動に関わる総合的な態度と実態を振り返り、自己評価させる。	★ これまでの学習で学んだことを思い出させる。	・ アンケートへの回答を見直し、現在の自分の消費者としての実態について、客観的に捉えさせる。現状に課題はないか、考えさせるようにする。
展開①	・ 今までの学習の振り返りと確認	● 本題材全体の学習を振り返り、これまでの学習を通して、自分の消費行動に対する態度や行動に変化があったかどうか確認する。 ・ 学級全体で意見を出し合い、学習によってどのような気づきがあったのか、確認し合う。	◆ 消費者としての自覚を再確認させる。	★ 生徒の気づきを網羅的に取り上げ、観点別に板書にまとめていく。	・ 次の活動である川柳作りの参考となるよう、内容を整理した板書にする。
展開②	・ 学習の成果のまとめと共有	● 今までの学習を踏まえて、今後の生活に生かすためのめあてと課題を考える。それを川柳として五七五で表現する。その際、キーワードを複数挙げるとともに、発信したい、伝えたいことが何かを明確にして、的確な表現ができるようにする。 ● 完成した川柳をグループで発表し合い、お互いの気づきを確認し合う。 ● 各グループから1つずつ、ベスト川柳を選んで学級全体に向けて発表し、共有する。	◆ 各グループが発表した川柳のキーワードや伝えたいことについて、学級全体で共有させる。	★ 学んだことを相手に伝えるために、言語活動として川柳の形で表現させる。その際、キーワードが効果的に生かされているかどうか留意し、グループ内で助言し合えるようにする。	・ 川柳で表現したことを、自分の生活に反映するように促す。
まとめ	・ 本時の授業の振り返り ・ 今後の生活実践上の課題	● 本時の授業を通して、感じたことや考えたことを、ワークシートに記入する。		★ 自分の家庭生活で実践するためのめあてを持たせる。	